



緑豊かなライデンは、パンデミック下でも人々を飽きさせない

●17時30分 公園散策
パンデミックの影響で自宅勤務が続く、モロッコ人の親友夫妻と自転車で合流し、近所の公園で気分転換を楽しむ。

●17時 クリーニング店訪問
小さなシミも見逃さぬ卓越した技術の持ち主であるトルコ人店主のおしゃべりも楽しみのひとつである。



移民を積極的に受け入れるオランダでは、英語がどこでも通じる

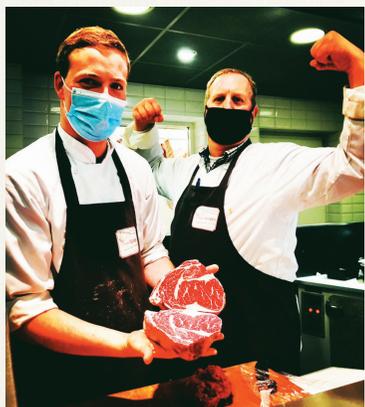


歴史的建造物に住む家主家族は、自ら修繕を行い、建物を美しく保存している

●12時 家主家族と昼食
階下に住む気さくで大らかなオランダ人家主家族との交流を通じて、ライデンの美しい町並みだけでなく、そこに住む人々への愛着が深まるばかりである。



ロックダウン以前には、筆者と家主家族の友人たちを招いて庭で食事会を開催した



ロックダウンにより、小売店ではマスクの着用が義務付けられている

●15時30分 近所の肉屋で買い物
「Wagyu(和牛)が入ったよ!」と店主が自慢げに見せてくれる。アムステルダムから遊びにくる同性カップルの親友たちとの夕食にしよう。今晚は、馳走である。

●13時30分 乗馬レッスン
酪農大国のオランダでは、乗馬を体験できる牧場も数多く存在する。今日は木々が紅葉する公園を散策する。



グループでの乗馬クラスの参加者が制限される等、牧場にもロックダウンの影響がみられる



The Netherlands

しなやかさと、豊かさと パンデミック下でのオランダ・ライデンの人々の生活

内藤 まりこ Mariko Naito

情報コミュニケーション学部専任講師
専門:日本文学・比較文学
1976年 フィリピン共和国マニラ生まれ
2000年 一橋大学社会学部卒業
2002年 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻修士課程修了(修士(学術))
2009年 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士課程退学(単位取得満期)
2010年 日本学術振興会特別研究員(PD)
2011年 東京大学大学院総合文化研究科 博士号取得(学術)

2012年 ハーバード・イェンチン研究所(アメリカ合衆国)共同研究員
2013年より現職
主な著書・論文
「葛藤するテキスト-編集文献学によるライデン大学図書館所蔵『源氏物語歌書抜』の分析」『日本文学』2021年4月掲載予定
所属学会
Association for Asian Studies, Modern Language Association, European Association for Japanese Studies, 日本文学協会



筆者が2019年9月から在外研究を行っているライデンは、オランダ最古の大都市である。市内には無数の運河がゆったりと流れ、その両岸には煉瓦造りの美しい建物が立ち並んでいる。
日本においてライデンは、オランダとの歴史的な繋がりによって知られている。ドイツ人医師フリッポ・フランツ・ファン・シーボルト(1796-1866)が、オランダ政府の命を受けて長崎の出島に滞在した際に、収集した文物をライデンに運び込んだという縁による。
2020年11月現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で、「部分的ロックダウン」が実施されているオランダでは、飲食店は休業し、人々には自宅での勤務が推奨されている。こうした状況下で、ライデンの人々はどうのように日々の生活を営んでいるのだろうか。
拙稿では、筆者の平日と週末(パンデミック下で起きた複数の事柄を1日の出来事として統合した)を紹介し、危機を生き抜くライデンの人々のしなやかさだけでなく、多様な背景を持つ人々を受け入れるオランダ社会の豊かさも伝えられたらと思う。

10月某日(水)
●9時 ライデン大学図書館にて資料調査
オランダ国内の大学の授業はほぼオンラインで行われ、図書館の利用は貸し出し・返却以外は予約が必要であるため、大学内は閑散としている。
●12時 市場にて買い出し
ライデンでは水曜と土曜に町の中心部に市場が立つ。人の密集を避けるため、市場は町外れの公園に移動した。



市場は北海で獲れた魚介類を求める地元の人で賑わう



ライデン大学図書館には、日本から渡った貴重書が多数所蔵されている



今日は家主の飼い猫チップも授業に参加した

●14時 オランダ語講座の受講
オンライン授業を手探りで進める教員を、受講生同士が連携して助ける場面に遭遇し、パンデミックの思いがけぬ効能を見出した気持ちになる。